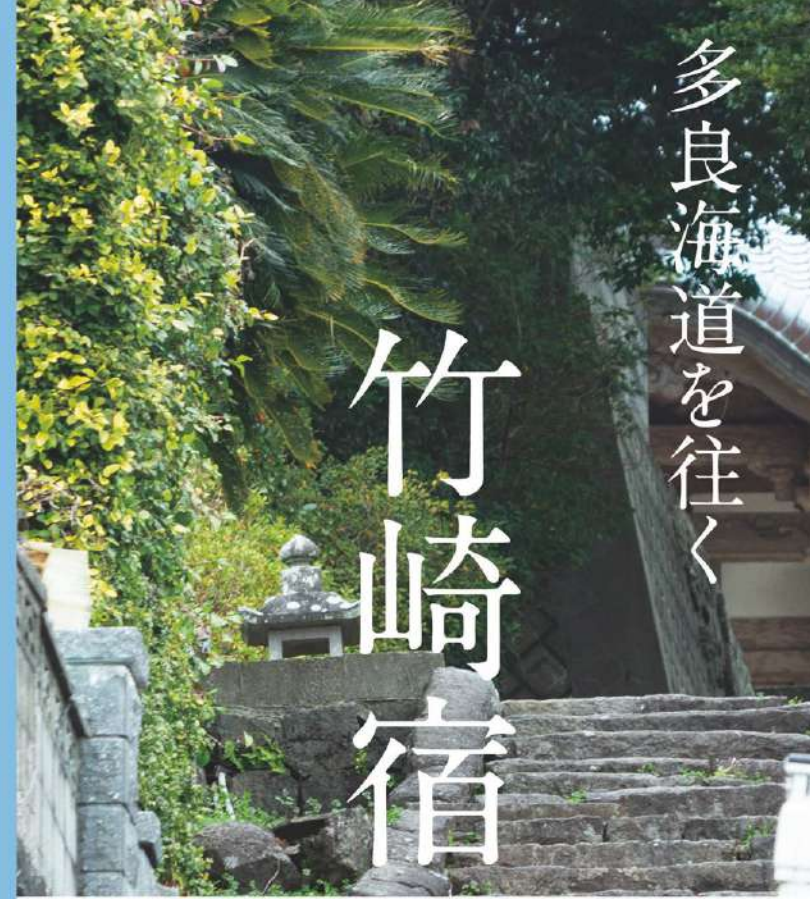


# 竹崎宿



- 夜灯鼻灯台跡
- 竹崎観世音寺
- 道越古墳
- 八坂神社
- 三社大権現
- 大浦神社
- 諏訪神社
- 多良宿上使屋跡
- 海中鳥居
- 竹崎城址
- 比翼塚
- 田古里古墳
- 熊野神社
- 浅間神社
- 住吉神社
- 休石
- 大魚神社
- 川上神社跡

# 多良宿



**多良海道とは**  
 長崎街道多良往還・多良道・諫早街道などとも呼ばれ、永昌宿(長崎県諫早市)と塩田宿(佐賀県嬉野市)間の総距離十二里八町(約四十八km)のルートを指す。  
 途中、湯江追分からは山あいのルートと有明海沿いのルートの二手に分かれるが多良宿で合流する。有明海沿いのルートを「竹崎街道」と呼ぶ。



### ⑭ 休石 (いけし)



その昔、大山祇命と素戔嗚命が有明海を船で渡っていたとき、突然のつむじ風により難破。大きなエビが現れ二人を背中に乗せて海岸まで運んできたところにあり、二人が腰かけて休んだといわれる石。現在も海岸だったところに残っている。

### ⑬ 諏訪神社



創建年代は不詳。祭神は海神。大魚大明神とも呼ばれる。諫早家第6代領主茂元公が天和2(1682)年社殿を再興、元禄6(1693)年鳥居を建立し、開運満足、領内の安全祈願所とした。

### ⑫ 川上神社跡



創建年代は不詳。祭神は淡路命・小碓古那命・秋津姫命。昭和43(1968)年に荒穂神社との合祀の話しが持ち上がり、3年後の昭和46(1971)年に遷座された。社殿は解体され、社の跡はゲートボール場になっている。

### ⑪ 大浦神社



昭和20(1945)年、浅間神社・諏訪神社・熊野神社の三社を合祀するため、熊野神社跡に大浦神社を創建することとなり、昭和27(1952)年に創建された。神社入り口には、元文元(1736)年に建立された「阿字塔」と呼ばれる自然石の石塔がある。

### ⑩ 浅間神社



貞観3(861)年に和歌山県の浅間神社を分祀して創建されたといわれる。永正年間(1504~20)西郷石見守宗雪が再建、江戸時代は諫早家により崇敬された。神殿には「弥五郎さん」と呼ばれる木彫の像2体が、祭神の守り神として鎮座している。

### ⑨ 海中鳥居



江戸時代、手を焼いていた悪代官を村人が示し合わせて沖ノ島へ誘い、酒に酔ったところを置き去りにした。代官は龍神様に助けを求めたところ、海中より大魚が出てきて背中に乗せて救った。感激した代官が大魚神社と共に海中に鳥居を建立したのが始まりと言われる。現在も代々建て替えられ続け、豊漁と海の安全を祈願し大切にされている。

### ⑧ 熊野神社



祭神は加武呂命と言われている。紀伊の国の熊野神社の分霊だと思われる。神前の狛犬の台座に「元文4己未歳」(1739)と書いてあるところから、江戸時代中期以降に祀られたと推測される。境内には樹齢300年を超えると思われるシノキ、フウノキが茂り、荘厳な鎮守の森の偉容を誇っている。

### ⑦ 八坂神社



祭神はスサノオノミコト・クシナダヒメ。創建年代は不詳。旧八坂神社の参道入り口にあった鳥居は、農道拡張のため祇園さんに上がる石段の近くへ移設された。

### ⑥ 田古里古墳



6世紀後半に築造されたと思われる。封土の直径は約10m、高さ約5.8mの円墳。西南に開口する横穴式石室で、玄室は奥室と前室に分かれた複室構造の石室。羨道を含めた石室の全長は約10.87m、幅約2.97m、高さ約2.4m。前室内には線刻文様、封土の周囲には空濠がめぐらされている。

### ⑤ 道越古墳



和銅2(709)年に開山した真言宗の寺院。本尊は行基作と伝えられる千手観世音菩薩。平安時代は33の堂宇が建ち並び仁和寺の末寺として栄え、鎌倉時代中期は後深草天皇の勅願寺だった。江戸時代は諫早家の庇護を受け、本堂や竹崎津(港)からの参道の石段が寄贈された。境内には石造三重塔や六地藏など数多くの石造物が祀られている。

### ④ 比翼塚



竹崎島の入口「渡り口」を越えると、右側に楯石と呼ばれる巨岩がある。この巨岩の上に隠れるように五輪塔が2基並んで祀られている。この五輪塔は、悲恋の末に亡くなった若姫と許嫁であった真海法印の墓石で比翼塚と呼ばれている。

### ③ 竹崎観世音寺



6世紀後半に築造されたと思われる。封土の直径は約9.5m、高さ約4.6mの円墳。西南に開口する単室の横穴式石室で、石室は約11.8m。玄室は奥行き約4.8m、幅約2.9m、高さ約4.3m。

### ② 竹崎城址



南北朝時代に築城されたと伝えられている。竹崎島の特殊な地形を利用した山城と水城との性格を併せ持つ築城様式で、中世の城郭研究上重要なものであったが、主要部分はほとんど破壊され、現在は中濠だけが残っている。

### ① 夜灯鼻灯台跡



竹崎沖は三角波や浅瀬があり、夜難事故が絶えなかったため、夜灯鼻灯台を平井坊が管理していた。途中中断していた灯台を寛延年間(1748~50)諫早家老の早田番左衛門が再建。文政11(1828)年に台風で倒壊するが、明治2(1869)年に番左衛門の子孫、早田運平が再建する。再建された十一面ガラス鏡式洋風灯台は、当時国内の灯台初のものであった。

### ① 夜灯鼻灯台跡



竹崎沖は三角波や浅瀬があり、夜難事故が絶えなかったため、夜灯鼻灯台を平井坊が管理していた。途中中断していた灯台を寛延年間(1748~50)諫早家老の早田番左衛門が再建。文政11(1828)年に台風で倒壊するが、明治2(1869)年に番左衛門の子孫、早田運平が再建する。再建された十一面ガラス鏡式洋風灯台は、当時国内の灯台初のものであった。

### ② 竹崎城址



南北朝時代に築城されたと伝えられている。竹崎島の特殊な地形を利用した山城と水城との性格を併せ持つ築城様式で、中世の城郭研究上重要なものであったが、主要部分はほとんど破壊され、現在は中濠だけが残っている。

### ③ 竹崎観世音寺

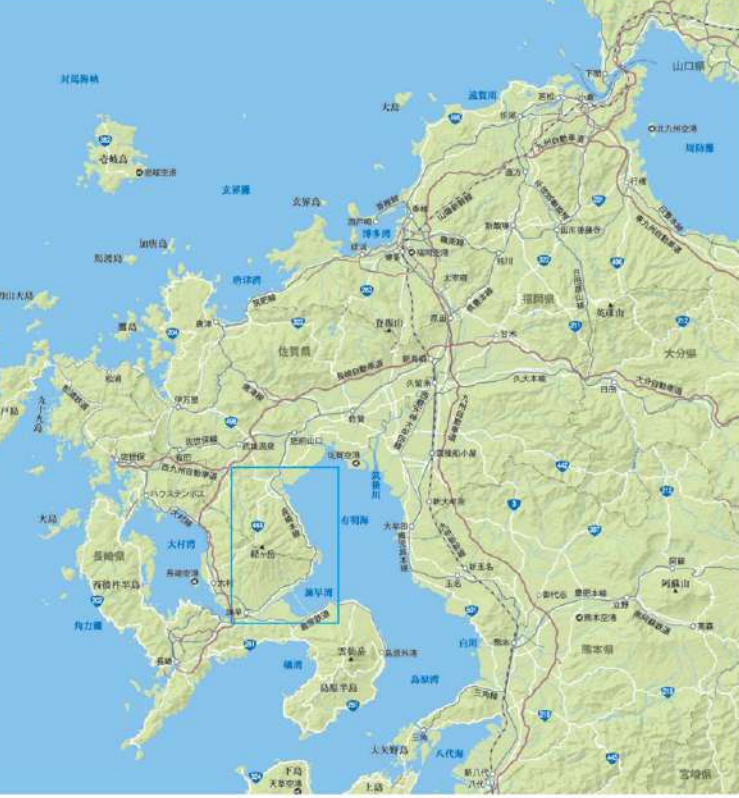


6世紀後半に築造されたと思われる。封土の直径は約9.5m、高さ約4.6mの円墳。西南に開口する単室の横穴式石室で、石室は約11.8m。玄室は奥行き約4.8m、幅約2.9m、高さ約4.3m。

### ④ 比翼塚



竹崎島の入口「渡り口」を越えると、右側に楯石と呼ばれる巨岩がある。この巨岩の上に隠れるように五輪塔が2基並んで祀られている。この五輪塔は、悲恋の末に亡くなった若姫と許嫁であった真海法印の墓石で比翼塚と呼ばれている。



### 諫早までのアクセス

- 福岡市内から約1時間40分 / 九州自動車道→長崎自動車道→諫早IC / 佐賀市内から約1時間10分 / 長崎自動車道→諫早IC
- 福岡市内から約2時間20分 / 博多駅交通センター→諫早IC / 佐賀市内から約1時間20分 / 高速基山→諫早IC
- 博多駅から約1時間30分 / 博多駅→諫早駅 / 佐賀駅から約1時間 / 佐賀駅→諫早駅

### 太良までのアクセス

- 福岡市内から約1時間40分 / 九州自動車道→武雄北方IC→太良 / 長崎市内から約1時間 / 長崎IC→諫早IC→太良
- 博多駅から約1時間30分 / 博多駅→多良駅 / 長崎駅から約1時間10分 / 長崎駅→多良駅

### お問い合わせ

**諫早市 (長崎県)**  
 〒854-0016  
 長崎県諫早市高城町 5-10  
 (一社) 諫早観光物産コンベンション協会  
 Tel.0957-22-8325  
 https://www.isahaya-kankou.com

**太良町 (佐賀県)**  
 〒849-1601  
 佐賀県藤津郡太良町大字伊福甲 3488-2  
 道の駅太良 観光案内所内 / 太良町観光協会  
 Tel.0954-67-0065  
 https://www.tara-kankou.jp/

**多良海道 ホームページ**  
 https://tarakaido.jp/

©令和3年3月発行  
 ©編集・発行 / 歴史の道観光・文化交流推進協議会  
 ©デザイン / (株) イースワークス  
 ©印刷 / (株) インテックス



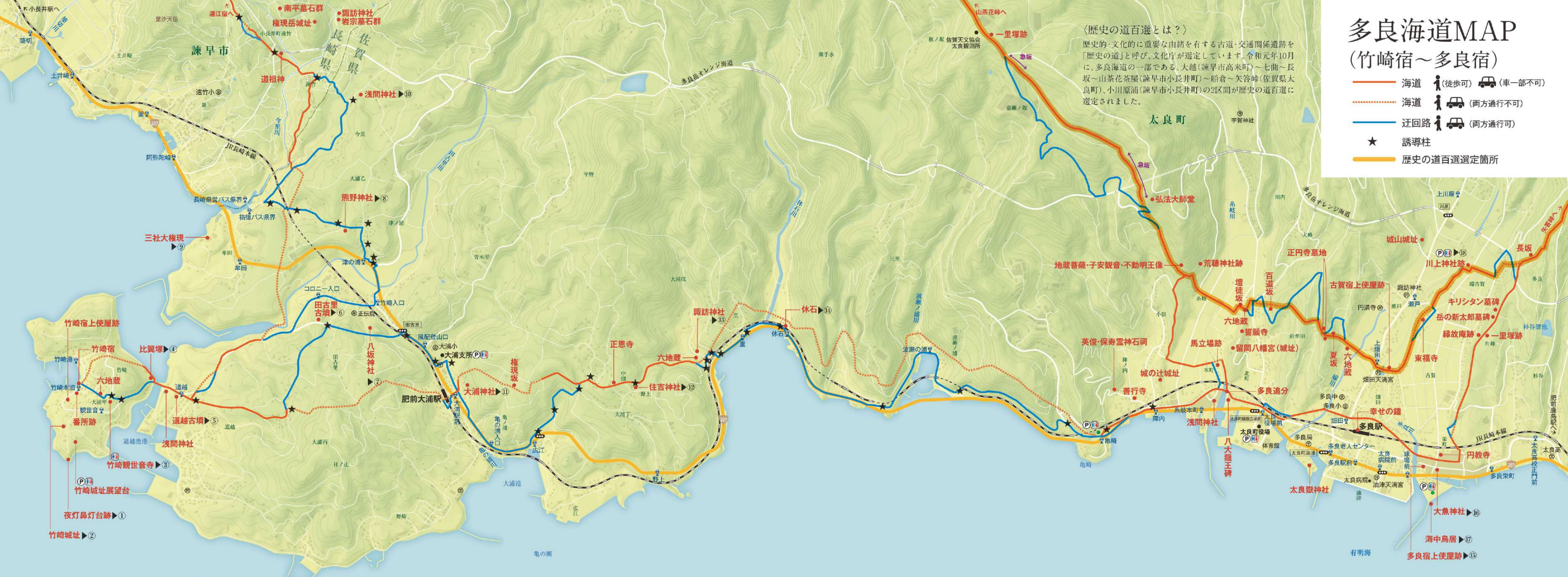
# 多良海道MAP

(竹崎宿～多良宿)

- 海道 (徒歩可) (車一部不可)
- 海道 (両方通行不可)
- 迂回路 (両方通行可)
- 誘導柱
- 歴史の道百選選定箇所

〈歴史の道百選とは?〉

歴史的・文化的に重要な由緒を有する古道・交通関係遺跡を「歴史の道」と呼び、文化庁が選定しています。令和元年10月に、多良海道の一部である、大越(諫早市高米町)～七曲～長坂～山茶花茶屋(諫早市小長井町)～船倉～矢谷峠(佐賀県太良町)、小川原浦(諫早市小長井町)の2区間が歴史の道百選に選定されました。



スマートフォンで多良海道と現在地が確認できます



有明海

有明海

0 100 200 300 400 500m